

リオン株式会社

2020年3月期 第2四半期決算説明会

2019年11月21日

証券コード<6823>

免責事項 | 本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

1 2020年3月期 第2四半期決算概要

2 通期の業績見通しと中長期の指標

1. 2020年3月期 第2四半期決算概要

取締役 経営企画本部長

加藤 公規

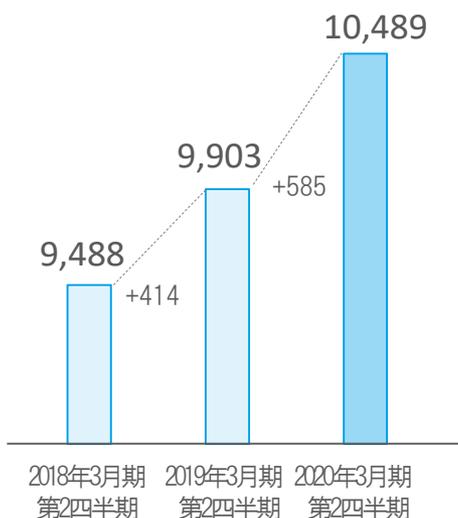
連結業績－決算ハイライト

売上高・利益ともに過去最高を更新

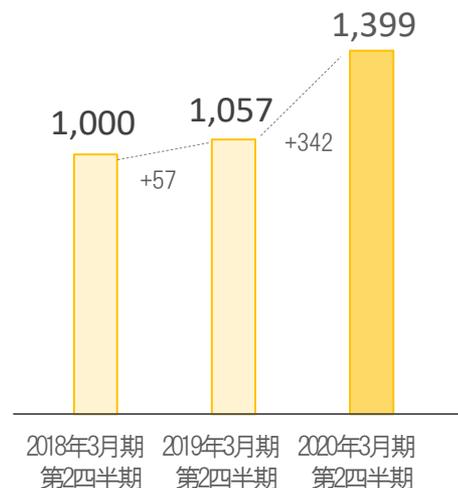
中価格帯補聴器の好調が継続

期初の通期業績予想に変更なし

売上高 [百万円]



営業利益 [百万円]



期初予想との比較

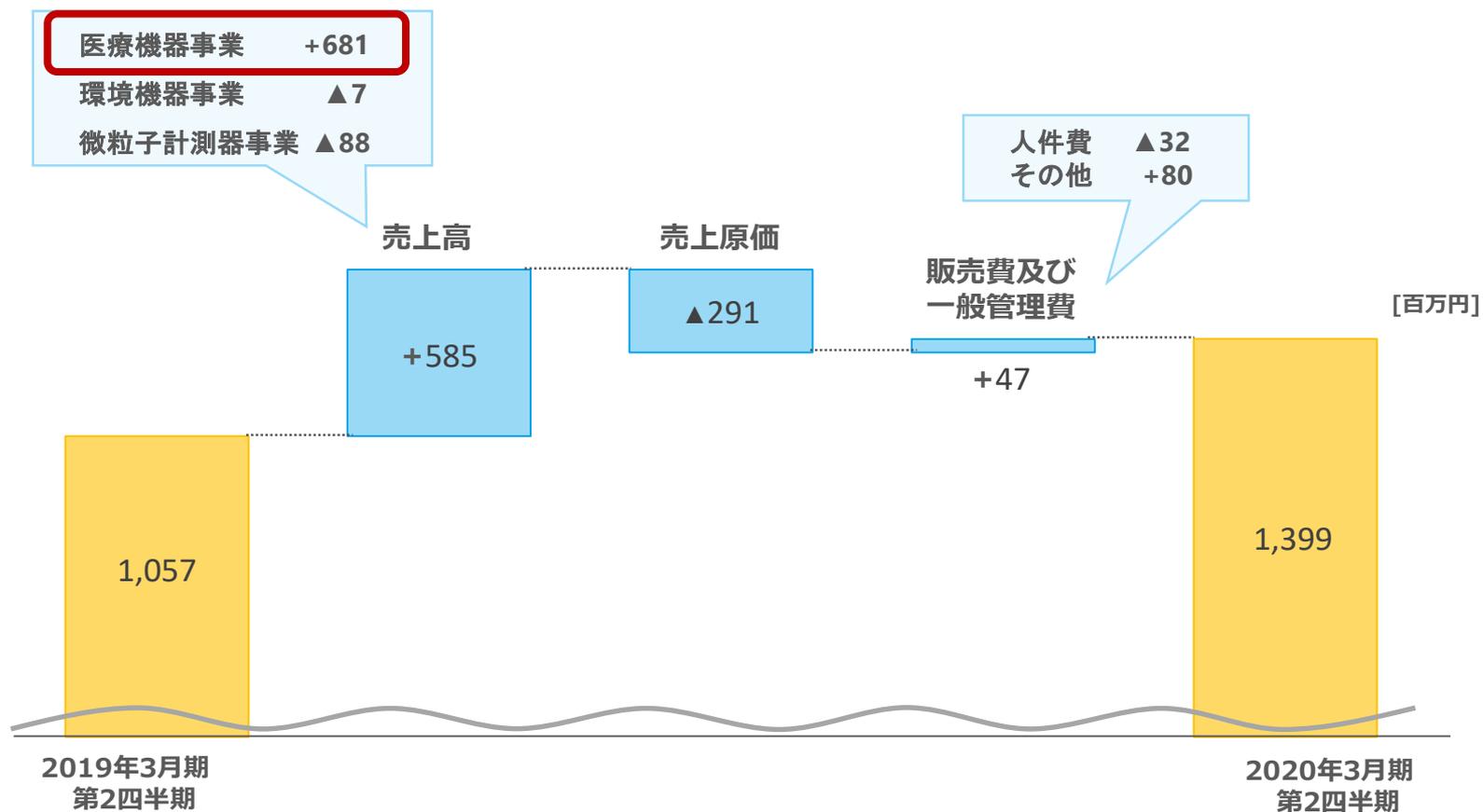
- 売上高・利益とも期初予想を達成
- 大幅な利益増により上方修正を発表（2019年10月21日）

[百万円]

	2020年3月期 第2四半期		達成率
	実績	期初予想	
売上高	10,489	10,000	104.9%
営業利益	1,399	1,050	133.3%
経常利益	1,437	1,200	119.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	999	800	124.9%
1株当たり四半期純利益	81円38銭	65円16銭	—
営業利益率	13.3%	10.5%	—

営業利益の推移

- 医療機器事業の売上増が営業利益の増加にも大きく貢献



事業セグメント別 – ①医療機器事業



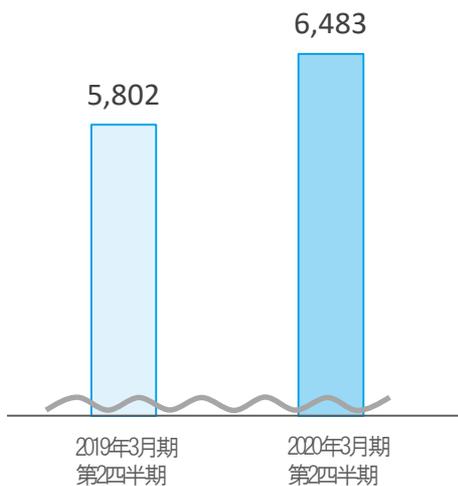
[増収増益]

- 中価格帯の新製品補聴器が売上に寄与 (補聴器)
- 大学病院からの大口受注 (医用検査機器)
- 増税前の駆け込み需要 (医用検査機器)

売上高

[百万円]

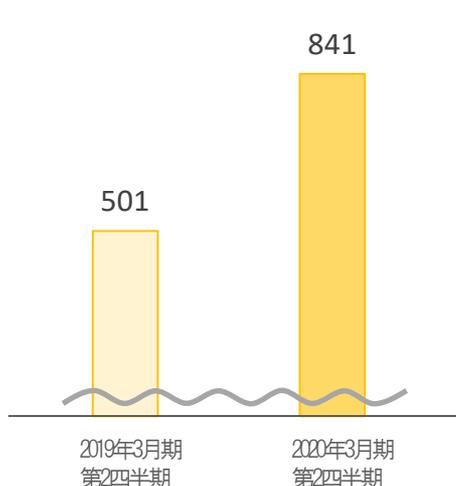
↑ 681



営業利益

[百万円]

↑ 339



営業利益率

[%]

↑ 4.4pt



事業セグメント別 – ②環境機器事業



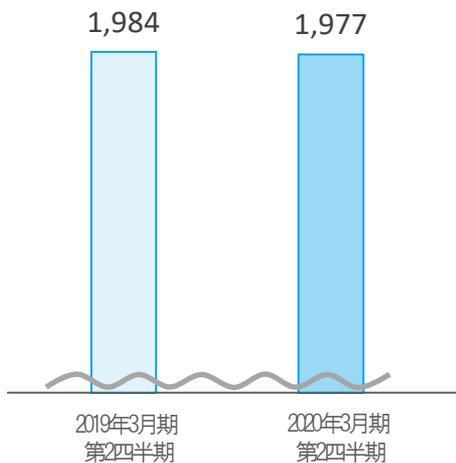
[減収増益]

- 都市部を中心に建設工事にかかる需要が継続
- 鉄道向け地震計の大口受注を獲得

売上高

[百万円]

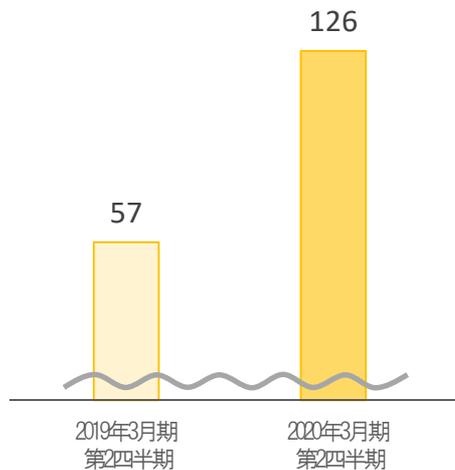
↓ 7



営業利益

[百万円]

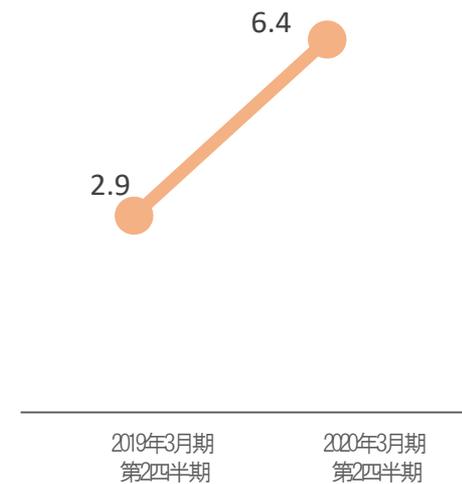
↑ 69



営業利益率

[%]

↑ 3.5 pt



事業セグメント別 – ③微粒子計測器事業



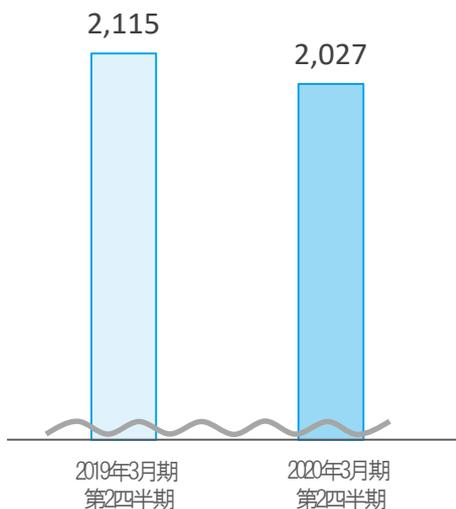
[減収減益]

- 国内における一般製品の販売がふるわず
- 国内/海外市場の両方において、最先端機種(液中微粒子計KS-19F等)が売上に貢献
- 日韓貿易摩擦におけるマイナス影響はない

売上高

[百万円]

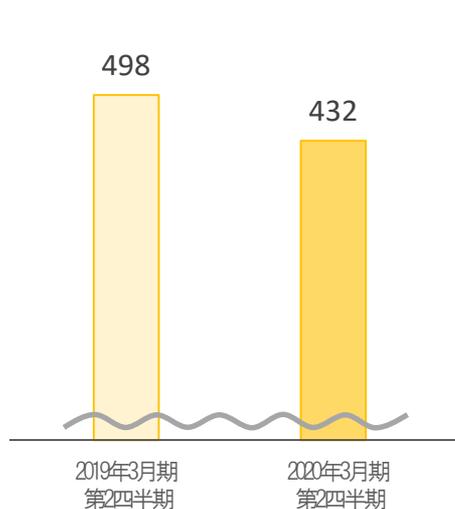
↓ 88



営業利益

[百万円]

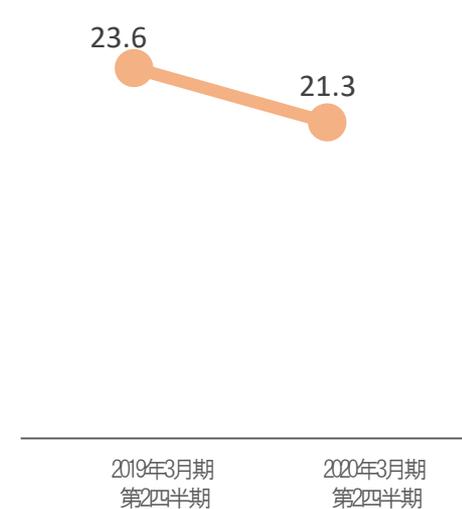
↓ 66



営業利益率

[%]

↓ 2.3pt



売上高3ヶ月の推移 (事業セグメント別)

- 医療機器事業の第2四半期(7~9月)売上高は過去最高水準に

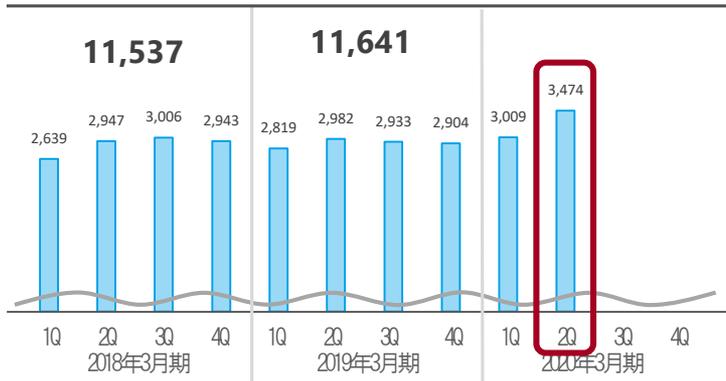
全体：売上高

[百万円]



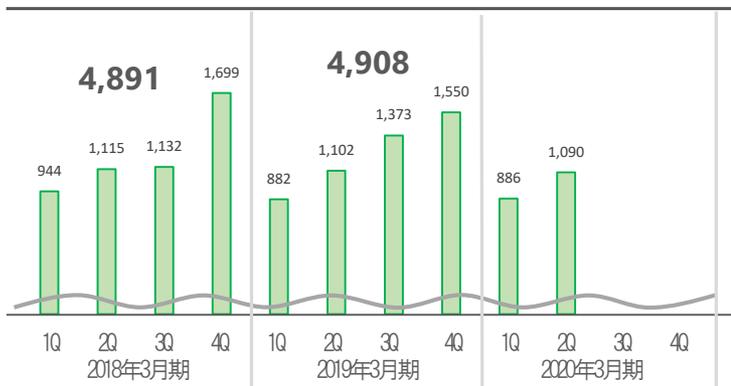
医療機器事業：売上高

[百万円]



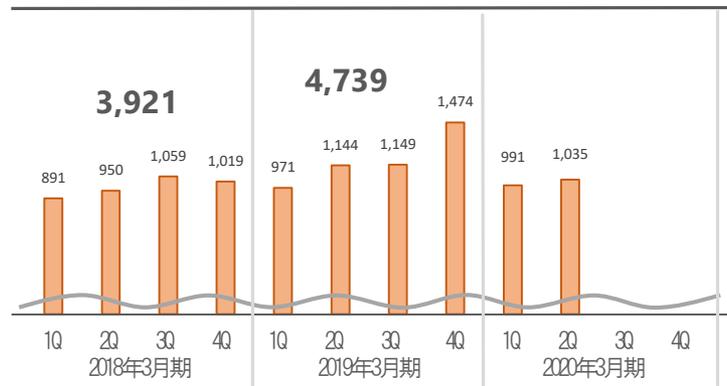
環境機器事業：売上高

[百万円]



微粒子計測器事業：売上高

[百万円]

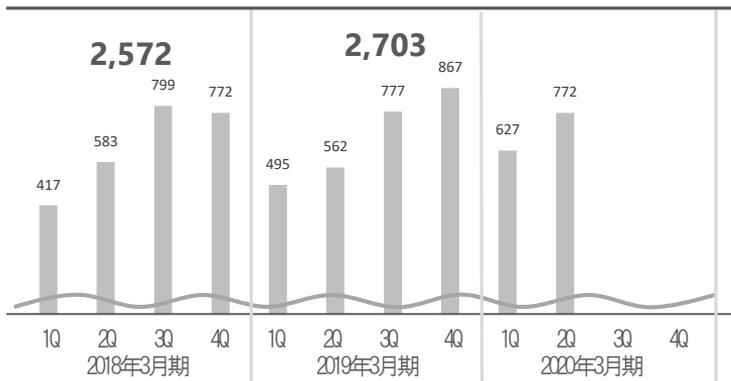


営業利益3ヶ月の推移 (事業セグメント別)

- 医療機器事業の増益が全体に大きく貢献

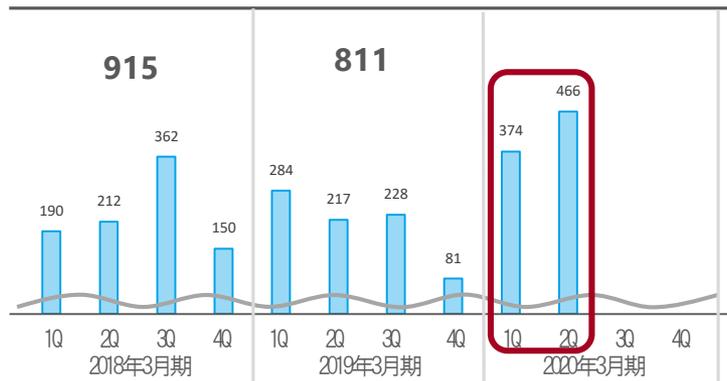
全体：営業利益

[百万円]



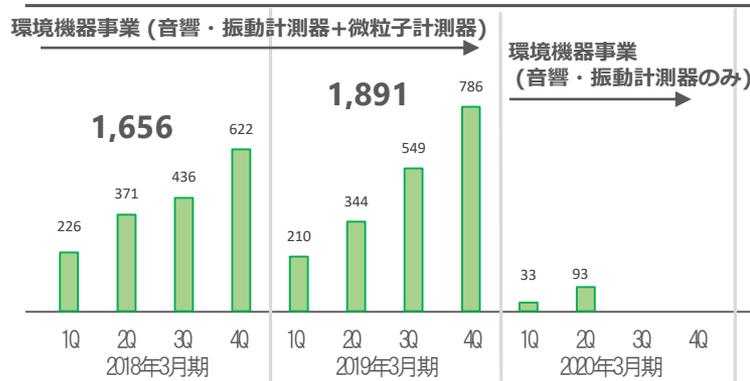
医療機器事業：営業利益

[百万円]



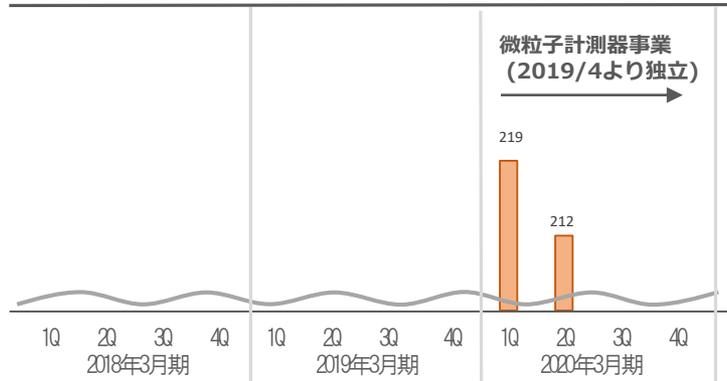
環境機器事業：営業利益

[百万円]



微粒子計測器事業：営業利益

[百万円]



※ 2019年度(2020年3月期)より、微粒子計測器は事業セグメントとして(環境機器事業から)独立しました。

連結貸借対照表 (B/S)

(百万円)

	2019年3月期	2020年3月期	前期比		備考
	実績	第2四半期 実績	増減額	増減率	
流動資産	16,202	16,935	733	4.5%	—
(現金及び預金)	4,545	5,704	1,159	25.5%	—
(たな卸資産)	5,059	5,321	262	5.2%	—
(その他)	6,597	5,908	▲ 688	▲ 10.4%	売掛金の減少など
固定資産	12,274	12,226	▲ 47	▲ 0.4%	—
有形固定資産	9,199	9,194	▲ 5	▲ 0.1%	—
無形固定資産	626	567	▲ 58	▲ 9.4%	—
投資その他の資産	2,447	2,464	16	0.7%	—
資産合計	28,476	29,161	685	2.4%	—
流動負債	3,712	3,642	▲ 69	▲ 1.9%	—
固定負債	3,720	3,625	▲ 95	▲ 2.6%	—
負債合計	7,433	7,268	▲ 164	▲ 2.2%	—
純資産合計	21,043	21,892	849	4.0%	自己資本比率は75.1%に上昇
負債及び純資産合計	28,476	29,161	685	2.4%	—

連結損益計算書 (P/L)

(百万円)

	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	前年同期比		備考
	実績	実績	増減額	増減率	
売上高	9,903	10,489	585	5.9%	医療機器事業が681百万円の売上増
売上原価	4,562	4,853	291	6.4%	—
売上総利益	5,341	5,635	294	5.5%	売上総利益率0.2pt増 (46.1%→46.3%)
販売費及び一般管理費	4,283	4,235	▲ 47	▲ 1.1%	—
営業利益	1,057	1,399	342	32.4%	営業利益率2.6pt増 (10.7%→13.3%)
営業外収益	75	67	▲ 8	▲ 11.1%	—
営業外費用	21	29	8	37.6%	—
経常利益	1,111	1,437	325	29.3%	経常利益率2.5pt増 (11.2%→13.7%)
特別利益	—	0	0	0.0%	—
特別損失	10	10	▲0	▲ 0.5%	—
税金等調整前四半期純利益	1,100	1,426	325	29.6%	—
法人税等	307	427	120	39.3%	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	793	999	205	25.8%	—

連結キャッシュ・フロー計算書 (C/F)

(百万円)

	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	前年同期比	
	実績	実績	増減額	備考
営業活動によるCF	972	1,679	707	—
税金等調整前四半期純利益	1,100	1,426	325	—
減価償却費	334	342	8	—
法人税等の支払額	▲ 564	▲ 321	242	—
その他	101	231	130	—
投資活動によるCF	▲ 436	▲ 563	▲ 126	—
有形固定資産の取得による支出	▲ 305	▲ 191	113	—
無形固定資産の取得による支出	▲ 140	▲ 64	75	—
その他	8	▲ 307	▲ 316	—
財務活動によるCF	▲ 306	▲ 276	30	—
配当金の支払額	▲ 245	▲ 269	▲ 24	期末配当20円から22円への増配による支出増
その他	▲ 61	▲ 6	54	—
現金及び現金同等物の期末残高	4,117	5,103	986	—

2. 通期の業績見通しと中長期の指標

代表取締役社長 清水 健一

連結業績の通期見通し

- 第2四半期の進捗率は前期を上回り、
期初予想の達成を見込む

[百万円]

連結業績	2019年3月期			2020年3月期		
	2Q実績	期末実績	2Q進捗率	2Q実績	期末(予想)	2Q進捗率
売上高	9,903	21,289	46.5%	10,489	21,600	48.6%
営業利益	1,057	2,703	39.1%	1,399	2,800	50.0%
経常利益	1,111	2,789	39.8%	1,437	2,900	49.6%
親会社株主に帰属する 当期/四半期純利益	793	2,002	39.6%	999	2,100	47.6%
1株当たり 当期/四半期純利益	64円66銭	163円14銭	—	81円38銭	171円05銭	—
営業利益率	10.7%	12.7%	—	13.3%	13.0%	—

売上高の通期見通し (事業セグメント別)

- ・ 医療機器事業の進捗率は、上期で50%を超える
- ・ 全体では、通期で期初予想通りの着地を見込む

[百万円]

売上高	2019年3月期			2020年3月期		
	2Q実績	期末実績	2Q進捗率	2Q実績	期末(予想)	2Q進捗率
医療機器事業	5,802	11,641	49.8%	6,483	11,800	54.9%
環境機器事業	1,984	9,648	42.5%	1,977	4,950	40.0%
微粒子計測器事業	※2,115			2,027	4,850	41.8%

※ 2019年度(2020年3月期)より、微粒子計測器は事業セグメントとして(環境機器事業から)独立しました。

市況感の認識 (医療機器事業①)

医療機器事業
(補聴器・
医用検査機器)

補聴器は、中価格帯製品が引き続き好調に推移する見込み。



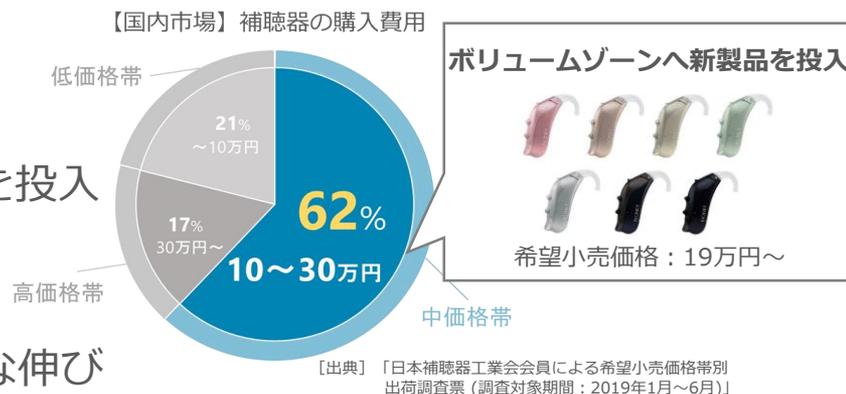
医用検査機器は、耳鼻咽喉科市場における買替え需要が継続する見込み。



市況感の認識 (医療機器事業②)

ボリュームゾーンへ新製品投入の効果

- 本年2月 中価格帯へ新製品“プレミエンス”を投入
- 買替え需要を捉え、上期の売り上げを牽引
- 中価格帯の売上は前年同期比141%と大きな伸び

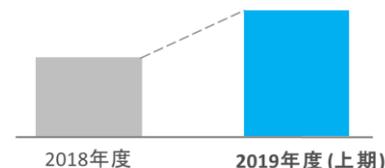


補聴器の両耳販売比率が増加

- 上期は顧客に対する両耳装用の販促を強化
- 両耳装用率は数年前から継続的に伸長

リオネット補聴器販売店における
オーダーメイド補聴器の両耳販売比率

+3.9% (前年比)

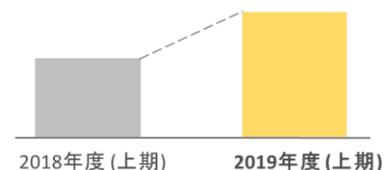


医療機関からの紹介件数が増加

- 医師が薦める「購入までに長期間の試聴を推奨する活動」を展開
- 医療機関からの信頼を得て、紹介件数が増加

リオネットにおける医療機関からの紹介件数

+19.2% (前年比)



【参照】リオネットセンター新宿
における医療機関の紹介
件数より算出

市況感の認識 (医療機器事業③)

- ・ 医療機関では検査機器の定期的な更新が続いている
- ・ 主力製品のオージオメータは診断用と健診用の2種類

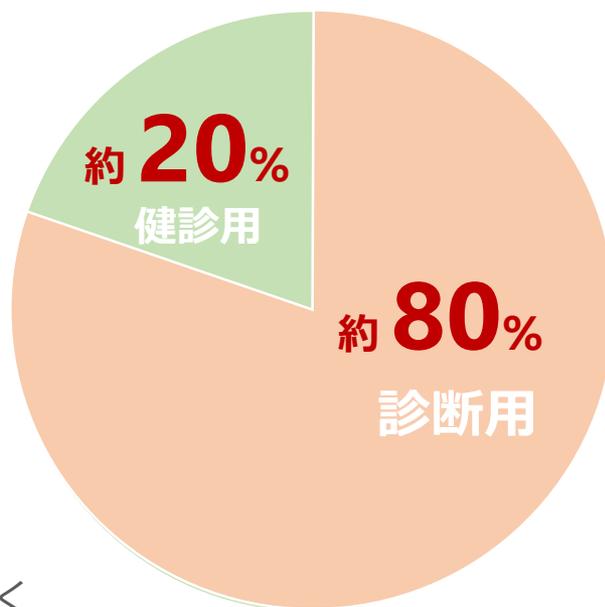
オージオメータ売上高比率
(2019年3月期)

聴力検査等に使用される

- 健康診断 (企業等)
- 人間ドック

国内シェアNo.1

今後も安定した需要が続く
特に健康診断向け等で強み



精密診断や研究に使用される

- 大学 / 大学病院
- 総合病院
- 開業医

国内シェアNo.1

国内医療機関では需要が安定
7~10年の周期で買替え

市況感の認識（環境機器事業①）

環境機器事業 （音響・振動計測器）

活況なインフラ整備に伴い、下期においても騒音計や振動計の販売が好調に推移する見込み。



市況感の認識 (環境機器事業②)

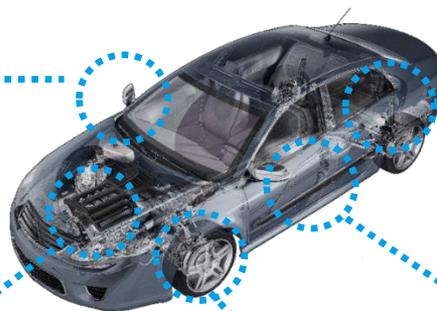
[国内市場]

- ・ オリパラ需要は後退するも、大都市圏における再開発により騒音計や振動計の需要は継続
- ・ 製品(完成品・部品)や製造用機械の品質管理等で活用される

▼当社製品はものづくりの様々な現場で使用されている



ミラー、ワイパーなどに使われる
モーターの特性の評価



マフラーの消音性能の試験



トランスミッションの振動・異音検査



ブレーキ音の試験

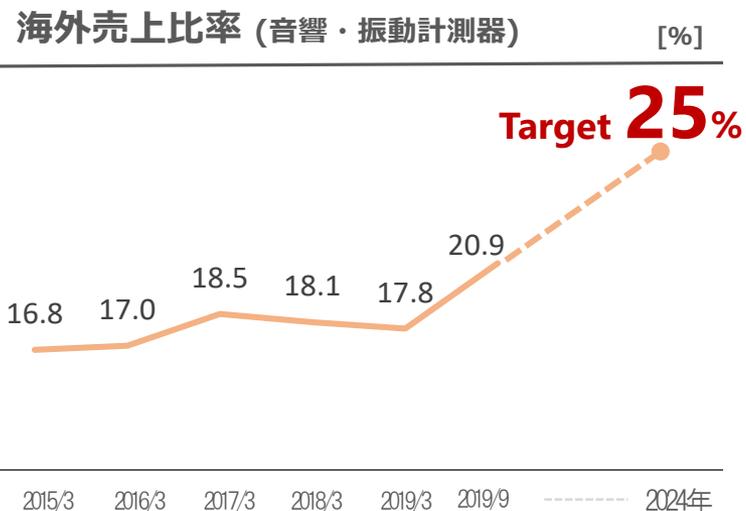


吸音材・ドアの開閉音の評価

市況感の認識（環境機器事業③）

[海外市場]

- ・ 国内市場飽和の中、海外の売上高比率が増加
- ・ 東南アジア市場において、工場のオートメーション化の動きを捉えた販売活動を行う



市況感の認識（微粒子計測器事業①）

微粒子計測器事業 (微粒子計測器)

半導体市場は米中貿易摩擦の影響から一時の勢いが落ち着きつつも、微細化への投資意欲は衰えていない。

微粒子計測器全体では減収となっているが、最先端微粒子計測器の販売は堅調な状況が継続している。



市況感の認識 (微粒子計測器事業②)

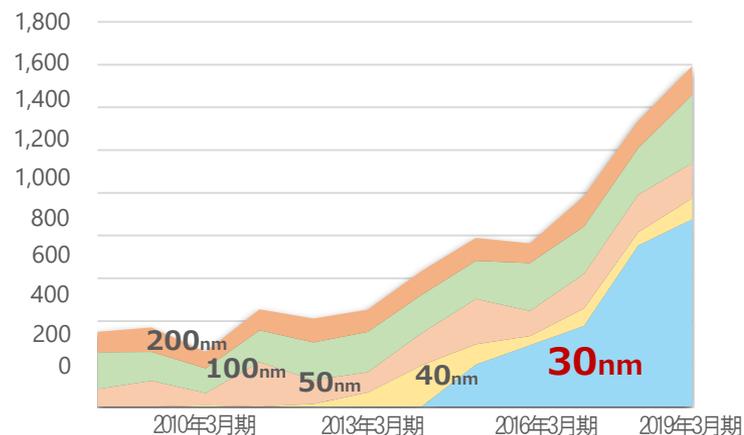
[微粒子計測器]

- 先端技術領域において 韓国市場に旺盛な需要
- 技術開発を継続しさらなるシェア拡大を目指す
- 他社に先駆けた 15nm粒子を計測可能な次世代製品の開発は遅延



液中パーティクルカウンタ「KS-19F」
30nmの粒子まで計測することが出来る

当社製品の売上高推移 (粒形サイズ別) [百万円]



市況感の認識 (微粒子計測器事業③)

[生物粒子計数器 (浄水場分野)]

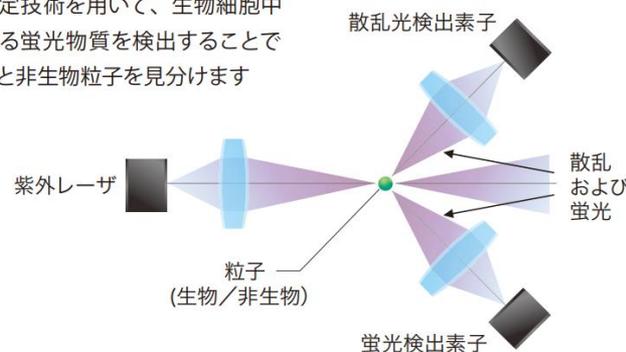
- 水質が変化した際の原因調査手法を、従来の培養法からリアルタイムに測定可能な当社製品に転換すべく、業界へ継続的にアプローチ
- 植物プランクトン数を直接計測して水質の良／不良 (濁度) を判断する水質管理法を考案。各地の浄水場でシェア拡大を目指す



水中の微粒子が生物か非生物かをリアルタイムに判別可能な「生物粒子計数器」

生物粒子計数器の基本構造

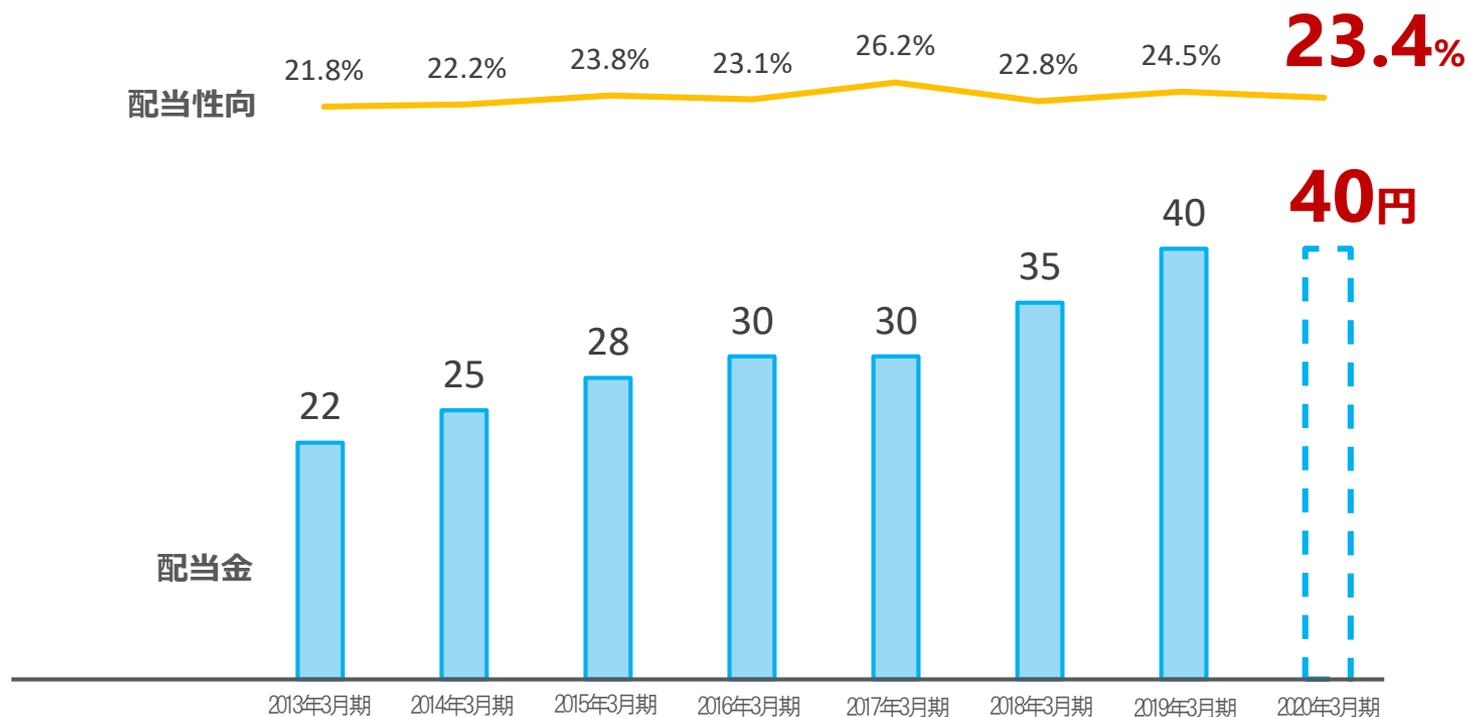
微粒子測定技術を用いて、生物細胞中に存在する蛍光物質を検出することで生物粒子と非生物粒子を見分けます



配当金と配当性向

- ・ 業績に応じた配当金額の設定
- ・ 配当水準向上の取り組みを継続

配当金・配当性向の推移と予測



中長期（創立80周年）の指標

指標

連結売上高 250億円

営業利益率 15%

ROE 10%



リオンは すべての行動を通して
人へ 社会へ 世界へ 貢献する

Contributing to people, society and the world through all our activities